

「立川市との実技交流会」 石川 英次(玉川小地区・10期目)

立川市と昭島市のスポーツ推進委員は、主にニュースポーツを対象とした実技交流会を実施しており、今年は昭島市が当番となって12月1日に光華小学校体育館で行われました。

この実技交流会はニュースポーツを知って親しむことと、両市推進委員の交流と親睦を深めることを目的としています。今回の種目はフライングディスク。日本フライングディスク協会によると12種類の競技が公認されていますが、障害者スポーツ大会のフライングディスク競技で行われているアキュラシーと、ディスクのさわりを実施しました。

アキュラシーはスロー・コントロールの正確さを競う種目で、高さ1mの足に1.5m四方枠をゴールとし、正面3か所、左右方向各2か所の7か所から各4投し、合計28投を7分以内に行い、ゴールの通過数を競います。

交流会では、5人1組7チームが、1人2投を3回行って得点を

競いました。正確なスローが求められる、なかなか得点には結びつきませんでした。

ディスクは、ディスクの飛距離を競う種目です。複数のサイトから2分30秒以内に5回スローを行い、飛距離を計測します。投げ方に制限はありませんが、バックハンドスローが一般的です。

交流会ではステージ前にネットを張り、ネットに直接届けば6点、以下距離による得点とし、1人3投してチームで競いました。ただ力任せにしても飛距離は出ず、腕の振りが重要でした。

実技後の懇親会は、成績発表と珍プレーなどに花が咲き、大いに盛り上がりました。



「平成30年度社会教育関係委員研修会の開催」 川口 弘一(富士見丘小地区・6期目)

平成30年度の社会教育関係委員研修会が、2月27日午後7時から昭島市役所市民ホールで開催され、司会は青少年委員の会の日井規次委員が務めた。

この研修会は21年度に行った意見交換会が始まりで、それぞれ得意分野の企画で有意義な研修と交流の場を図っている。その後は、メンバーである青少年委員の会、スポーツ推進委員会、公民館運営審議会、社会教育委員会が輪番で企画・開催をしている。

今回は青少年委員の会が担当で、古屋俊美委員長が開会のあいさつを行い、「豊コースター」を作ることにした。

続いて小林一己教育長は、日頃のねぎらいを表すとともに、「引き続き、それぞれの分野で社会教育活動に尽力してほしい」とあいさつした。

早速「豊コースター」作りに移り、20センチ四方(大)1枚と15センチ四方(小)2枚の「豊



表」と模様の入った折紙3枚が配られた。折紙は2センチと3センチ幅のものをそれぞれ4枚ずつはさみを使って切り、半分に折り曲げ、ポンドを使って四方に見映えよく貼り付け、余分なものははさみで切り落として完成させた。久しぶりに工作のようなことをしたが、感性や器用・不器用もあり、出来栄は「まあまあ」という感じであった。

約1時間の作業が終わり、7階に移動して情報交換会が始まった。引き続き青少年委員の会が進行を行った。歓談後、委員会ごとに自己紹介を行い、来期担当の公民館審議会の代表があいさつして情報交換会を終了した。